

会計基準アドバイザリー・フォーラム
2014年9月23-24日

無形資産及びその償却に関する投資者の見解
FRC スタッフ リサーチ・プロジェクト

Roger Marshall



Slide 1

背景

- 目的：IFRSは無形資産に関して有用で信頼性のある情報を提供していると投資者が考えているのかどうかを理解すること
- 27名の投資者（主に、英国とドイツを拠点とする）への質問票に基づいた調査（2013-2014年に実施）



企業結合における無形資産

- 半数以上が、異なる会計処理を選好(当初認識時と事後報告時の両方で)
- 過半数が、利益を評価する際にすべての償却を足し戻す傾向
- 2つのクラスの区別に対する多大な支持
 - 「減耗する」無形資産—耐用年数にわたり償却
 - 「企業内部で置き換えられる」—毎年の減損のみ、のれんの中に組み込まれる場合がある



無形資産のクラス

減耗する

- 有限の、識別可能な収益ストリーム
- 例えば：周波数の割当
- 耐用年数にわたり償却

企業内部で置き換えられる

- 日々の業務を通じて継続的に更新される
- 例えば：ブランド、顧客リスト
- 減損のみーのれんと結合



その他のメッセージ

- 約半数が、開発費(のみ)を認識して償却することに満足
- 個別に取得した無形資産の認識及び償却を強力に支持(おそらく、これらが「減耗」するため)
- 基準の適用及び開示の首尾一貫性に関してのいくつかの懸念



検討のため...

- 以下の認識規準は、企業結合以外の無形資産については合理的にうまく機能しているように見える
 - (i) 可能性の高い将来の経済的便益
 - (ii) 信頼性のある測定
- しかし、これらは企業結合から生じる無形資産には当てはまらない

